



2021年9月27日発行
通算 第222号

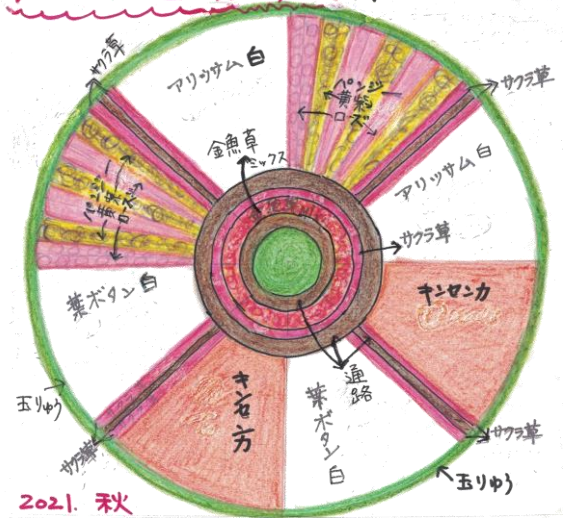
会員だより 2021年
10月号

NPO 法人 大田・花とみどりのまちづくり
〒146-0094 大田区東矢口 3-17-2-103
Tel&Fax. 03-3734-7932 / npoogc@yahoo.co.jp
http://hanamidori.sakura.ne.jp/

秋の植替えシーズンがやってきました!

花壇の植替えの季節が近づいてきました。10月から始まる植替えに向けて、南久が原園場では9月にポット上げを行い、園場スタッフの日々奮闘による育苗が始まっています。
各花壇では、植替えのたびにテーマを花壇会議で話し合い、そのテーマを基にイメージを膨らませて花壇をデザインしています。今回はどんな花壇ができあがるのか…楽しみです♪

広がる花壇に愛と夢を♥ 蒲田駅東口円形花壇



蒲田駅東口円形花壇(俯瞰図)
「広がる花壇に愛と夢を♥」

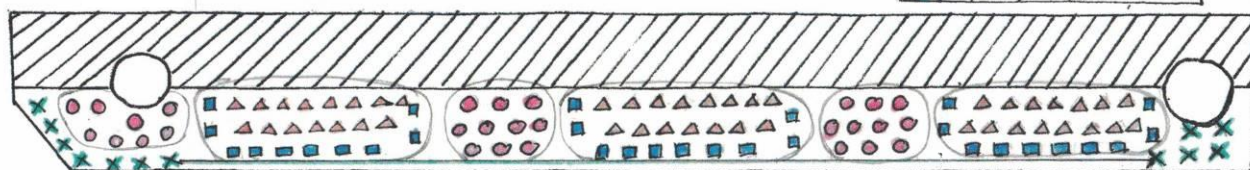
元気をありがとう!! 蒲田南口花壇



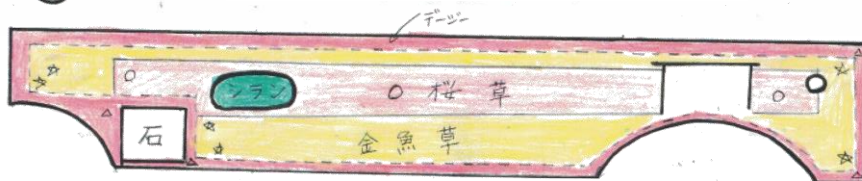
蒲田駅南口花壇「元気をありがとう!!」

⑤ 「お正月から春まで楽しめる花壇」

記号	花苗(色)
▲	葉ボタン(赤)
■	葉ボタン(白)
●	桜草(うぐいすレッド)
✕	デージー(赤)



⑨



⑧



「春を待つー、
咲き誇る花を見たくなる花壇」

花名	記号
桜草(白)	○
金魚草	☆
デージー(赤)	▲

大森駅前広場花壇

⑤「お正月から
春まで楽しめる花壇」

⑧⑨「春を待つー、咲き誇る
花を見たくなる花壇」

本庁舎花壇植替え：9/11(土)



ナデシコ、ペントスを植付け

本庁舎前18色花壇

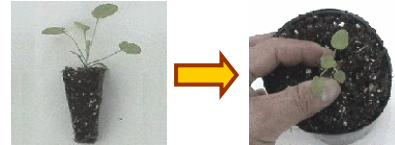


「南久が原圃場土作り、ポット上げ」

9/10(金)、9/17(金)

秋、冬の花苗の準備が始まりました。

蒲田花壇の作業日に「南久が原圃場に来て～！」と声をかけられ、何年振りかで土入れとポット上げに参加しました。以前、大森南圃場で皆さん慣れたポジションに入り、多くの花苗が出来上がる様子に感心したことなどを懐かしく思い出しました。今回の南久が原圃場も各々が細かい指示がなくても、自分の持ち場で黙々と手を動かす様子はさすがです。密にならぬように…、各々休憩をとり水分補給を…、とコロナ禍の中での注意を受け、ずらりと並んだポットに



キンセンカ、桜草、パンジー等を手際よく植えていきます。日当たりの良い場所に並べて水やりをする人も無駄がありません。空になったプラスチック箱や使い終わった道具を洗い、拭き、各々収納する…。一連の作業が気持ちよく進み、「さすが花とみどりのまちづくりの会員の民意は高い！！」と感心した2日間でした。(小山くみえ)

★7月から南久が原圃場花苗担当(副)を坂井武子さんが担当されています。みなさま、ヨロシク！！



土づくりの様子(9月10日)



土づくりの様子をオンラインでレポート中(9月10日)



ポット上げを待つプラグ苗



本葉が数枚出た程度の赤ちゃん苗(プラグ苗)をポリポットに植替え(9月17日)

「みどりの縁側」 平和の森公園展示室



★ネイチャーウォーク「公園で昆虫を探そう」 9月11日(土)

今回は人数の関係で、2週にわたっての開催の予定でしたが、一回目(9月4日)は雨で中止となり、11日は満を持してのネイチャーウォークでした。

バッタやルリシジミチョウ、カメムシやコオロギなど、たくさんの昆虫を観察しました。参加した子ども達は目を輝かせながら全てのことに興味津々。

講師の上田さんが事前に採集して縁側スタッフが必死に(!)世話をしているミノムシくんが顔を出して葉っぱを夢中で食べる様子を、参加者全員で固唾を呑んで見守っているところは微笑ましい光景でした。

昆虫は外敵から身を守る為に、長い年月をかけて様々な進化をしています。現在人間が戦っているウイルスはものすごいスピードで進化しています。その進化に対抗するにはどうしたら良いか…。私達人間よりも長く生き物として生存している昆虫から学ぶべきところは多くあると思うのです。コロナ禍をきっかけにして、昆虫先輩からたくさんのことを学んでみようと思います。

機会があったら縁側ミノムシくんに会いに来てください。何かを語ってくれるかもしれませんね。(金澤 利奈)



ミモザの葉をモリモリ食べるミノムシくん



黒鶴稲荷野草レスキュープロジェクト始動! ①

中央五丁目の「黒鶴稲荷神社」がある山は、江戸時代頃からの長い歴史があり、多くの生き物を育む大変豊かな森を擁していたのですが、崖地高台にあり「土砂災害特別警戒区域」に指定されたことから、改善策として崖を切り崩して高齢者施設を建設するという開発工事が行われることとなりました。

一度失われると決して元には戻らない豊かなみどりを守ることが叶わないならば、せめてこの地の環境の一部だけでも残そうと、野草などの植物や、植物の種子が眠る表土を

掘り出して別の場所に移すことで命を繋いでゆけたら、と有志による「救出作戦」が始まりました。

神社の近隣に住む会員、内田亜紀さんの呼びかけに、こうした保全活動を各地で指導・サポートしておられる、造園家で樹木医の佐々木知幸さんが協力くださることになり、佐々木さんの呼びかけで専門家を含む有志が集まったの植物救出作業が実行されました。救出された植物は、手分けして養生されています。今後、移植や観察会を展開していく計画ですので、それに向けて、この取り組みについてのコラムを連載していきます。



かつての姿、豊かな森



有志の皆さんの集合に感謝



絶賛救出中!



挿し木で増殖も

<今月の会員だよりの同封物>

- ◆「みどりの縁側」だよりの10月号 ◆「せせらぎ園芸セミナー」チラシ
- ◆「ベジダンゴ」チラシ ◆活動アンケート(会員のみ)